

2020年
10月
NO.41

西ノ島町

社協だより

主な内容

- 赤い羽根共同募金運動
- ありがとうメッセージ
- 会費納入のお礼
- 生活支援ネットワーク会議

赤い羽根共同募金運動が始まりました



10/1～12/31（共同募金運動推進期間）

歳末おそば配食(民生児童委員協議会)



出前会食交流会(はっぴい)



子育てサロン(民生児童委員協議会)



子育てサロンボランティア募集!!

かわいい子どもたちの見守りをしませんか?
興味のある方は、お気軽にお問合せください。
(社協6-1470)

あなたの募金は西ノ島町でたくさんの笑顔に変わっています

～ 自分の町を良くするしくみ・赤い羽根共同募金～

毎年、町民の皆さまより寄せられる多くの募金に感謝申し上げます。

共同募金は、自分の住む町が好き、だからずっと住み続けたい町。そんな気持ちを支えるしくみが赤い羽根共同募金です。たくさんの人々のやさしさが共同募金を支えていることをご理解頂き、ご協力をお願い致します。



発行者／社会福祉法人 西ノ島町社会福祉協議会 ☎684-0303 島根県隠岐郡西ノ島町美田2485番地
TEL(08514)6-1470・FAX(08514)6-0082 E-mail : nishi-shakyo@lily.ocn.ne.jp
この広報紙は、皆さんからいただいた社協会費を活用しています。

赤い羽根共同募金運動にご協力をお願いします。

～令和3年度・共同募金配分金事業～

令和2年度目標額 **1,557,000円**



令和2年6月に共同募金委員会審査会・運営委員会において来年度の各種事業の配分計画を決定し、今年度募金の目標額を定めて募金運動を推進しています。西ノ島町で集まった共同募金は、下記の事業に配分される予定です。尚、今年も募金ボランティア連絡会において、各区長、受配団体代表者、社協理事の方々に募金運動推進にご協力頂くことになりました。各世帯へお願いに伺いましたら、皆様のご協力をお願い致します。

西ノ島町の福祉事業に…。1,275,000円（募金総額の約8割）

島根県内の地域福祉事業や災害義援金に…。282,000円（募金総額の約2割）

- 当事者家族のお互いを支え合う仲間づくり事業（すまいる）：30,000円
- 子育てサロン開催事業（民生児童委員協議会）：65,000円
- 赤ちゃん訪問事業（社会福祉協議会）：40,000円
- 子育て支援事業“子育てについてみんなで語ろう”（社会福祉協議会）：50,000円
- 歳末おそば配食事業（社会福祉協議会）65,000円
- 福祉教育推進事業（社会福祉協議会（小学校・中学校））：80,000円
- ふれあいまつり開催事業（社会福祉協議会）：100,000円
- ボランティア活動支援事業（8団体公募事業）：400,000円
- みんなで支え合うまちづくり推進事業（8地区公募事業）：400,000円
- 地域福祉事業管理費（社会福祉協議会）：45,000円



新型コロナウイルスの影響を受け、人と人が距離を取り、接触する機会を減らすことが求められたことで、我々の多くが、日常的にも誰かと繋がっていること、誰かを支えたり支えられたりしていることの大切さにあらためて気づかされました。つながることが難しい状況ではありますが、“つながりをたやさない社会”をつくるために、共同募金は大きな役割を果たしています。赤い羽根共同募金にご理解とご協力をお願いします。



平成元年度 赤い羽根共同募金助成事業 ありがとうメッセージ

平成30年度に皆さんから寄せられた募金は、令和元年度の各種福祉事業に役立てられました。配分金を活用された団体等のありがとうメッセージを紹介します。

商工会女性部（ボランティア活動支援事業）



ふれあいまつり

商工会女性部員は地域の各事業所で毎日忙しく働いています。その中で『ふるさと』に貢献したいとの思いで、地域のイベントに協力すること、観光地の清掃活動、施設を訪問してお年寄りや笑顔でふれあうことは、女性部員の大切な役割と考えています。今回の助成金で、お揃いのポロシャツを作りました。毎年、西ノ島町で開催されるイベントへの協力は当然ですが、他の隠岐地区の行事、島根県各地で開催される行事にも、ポロシャツを着用して参加することで、商工会女性部のPRにつながっています。活動資金が不足する中、大変有難く使わせていただき、女性部員一同大変感謝しています。ありがとうございました。

わがとこ茶屋倶楽部（ボランティア活動支援事業）

共同募金をありがとうございます。私たちわがとこ茶屋活動は10年目に入ります。地域の皆さんに「今度はいつあるの？」と楽しみにされている様子の声かけをいただくことがよくあり、私たちもやりがいを感じます。お蔭様でユニホーム（エプロン）をそろえることができました。とても感謝しています。これからも楽しく活動してまいりますのでどうかよろしくお願い致します。



夕陽カフェ(国賀)

あしたばの会（ボランティア活動支援事業）



隠岐島前高校の生徒と西ノ島について学習

「あしたばの会」はロシアとの民間交流を通じて史実を学び、西ノ島町の先人が行った史実を通じて島からロシアへ、ロシアから島へと絵画や習字等の文化交流活動を続けています。また、PHDからの東南アジア諸国の研修生を受け入れ、地域住民の方々の協力を得ながら応援しています。更に隠岐島前高校地域国際交流部とロシアからの留学生を受け入れたり、ウラジオストクオケアン子どもセンターで島の高校生が学ぶ機会の橋渡しを行い、今年で4年目になりました。これからも次世代が歴史から学び、誇りを持って未来の夢に繋げることができるよう、心豊かな仲間と共に支援活動を継続していきたいと考えています。

こんにちは!生活支援コーディネーターです



生活支援ネットワーク会議に参加しました

西ノ島町では地域の高齢者にとって住みやすい町になるよう、官民協働で生活支援の仕組みづくりを考える「生活支援ネットワーク会議」が設置されています。4回目となる会議が8月26日にノア講義室において開催され、福祉施設や金融機関の職員、地区のボランティア等26名が参加しました。

研修会

「フレイル予防について」 ※フレイル…加齢により心身が衰えた状態。健康から要介護へ移行する中間の段階と言われています。

講師:隠岐島前病院 白石院長、岡本言語聴覚士、高木管理栄養士、浜田作業療法士

日本人の平均寿命（男性80歳、女性87歳）が延びる中、健康寿命（男性72歳、女性74歳）との差を縮めることが重要です。フレイル予防で大事な「栄養」「口腔機能」「運動」について、管理栄養士さん、言語聴覚士さん、作業療法士さんそれぞれの専門職のお話も聞くことができました。

報告

「地域での取り組み状況～成果と課題について～」

生活支援コーディネーターとして地区で行ってきた座談会の様子や地区での困りごと、心配ごとについて報告しました。解決のためのアイデアや意見も出され、今後、生活支援ネットワーク会議や関係機関と協力しながら取り組んでいきたいと思えます。

グループワーク

フレイル予防や地区の課題等を踏まえ、参加者がそれぞれの立場で、“できること”について話し合いを行いました。参加したみなさんに自分ごととして考えていただき、良い意見交換の場となりました。コロナ禍で人とのつながりが希薄になる状況にありますが、こうした思いや機会を大切に、西ノ島がより住みやすい町になるようみんなで協力しながら進めていきたいと思えます。

(生活支援コーディネーター 中尾 敦子)



令和2年度 社会福祉協議会 会費納入のお礼

社会福祉協議会は、社会福祉法に位置づけられた団体で、定款に会員を置くことを規定しています。会員は、社会福祉に関心を有し社協の趣旨に賛同して入会した者とし、各世帯を単位とする一般会員（年会費1,000円）と、個人、団体、施設等の賛助会員（年会費1,000円以上）に区分しています。

一般会員の会費につきましては、今年度も各地区の区長さんのお世話で各世帯から納入していただきました。

会費は、法人運営事業（役員報酬、研修費、印刷製本費、備品購入費等）やボランティアセンター運営費などに活用されています。

会費納入につきまして、皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



福祉体験学習



7月7日、西ノ島小学校のボランティアクラブの児童6名を対象に福祉体験学習を行いました。初めにあいさつ運動について説明し、障がいのある方への配慮や声かけの方法について

学びました。その後、二人一組になり、“高齢者・視覚障がい疑似体験”と“疑似体験をしている生徒の介助”を行いました。疑似体験を通し、障がいのある方の生活のしづらさ、どのような介助や声かけが安心できるかを体験することで、介助する側になった時に相手の気持ちを考えながら介助することができました。

誰もが過ごしやすい学校や地域をつくるために、一人ひとりに何ができるかを考えてもらう良い機会になりました。

